

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-530	12-335	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
Alcohol abuse-related severe acute pancreatitis with rhabdomyolysis complications. 横紋筋融解症を合併するアルコール関連急性膵炎。		
執筆者		
Su MS, Jiang Y, Yan XY, Zhao QH, Liu ZW, Zhang WZ, He L.		
掲載誌		
Exp Ther Med. 2013 Jan;5(1):189-192.Epub 2012 Oct 4.		
キーワード		
要 旨		
目的： 非外傷性横紋筋融解症は、急性膵炎のまれな合併症である。急性膵炎と横紋筋融解症の主要な危険因子の 1 つはアルコール乱用である。しかしながら、アルコール乱用患者で重症急性膵炎（SAP）と横紋筋融解症の予後と関連の報告は少数例しかない。本研究で、我々は大量アルコール摂取の後、横紋筋融解症を合併した SAP の 2 症例を報告する。		
方法： 各患者の疾患発症、臨床症状、検査所見、診断と治療処置が記録され、横紋筋融解症との関連が分析された。飲酒は、これらの患者における SAP と横紋筋融解症の最も優位な原因であった。SAP 関連の横紋筋融解症は、主に膵壊死と関連した毒性により誘発された。検査で血清クレアチンキナーゼ（CK）とミオグロビンの濃度が増加し、急性腎不全症はみられた。それらにより SAP により誘発された横紋筋融解症と正確な診断が提供された。横紋筋融解症と以降の過剰ミオグロビン尿症は、高度に腎機能を低下させ、低カルシウム血症を悪化させた。横紋筋融解症を伴う初期 SAP の治療は、輸液のサポートを必要とした。第一期治療が失敗するとき、血液透析は直ちに行われなければならない。		
結果： 両方の患者は多臓器不全（MOF）を現して、疾患のために死亡した。		
結論： 提示される 2 つの症例を考慮して、我々は、横紋筋融解症を合併するアルコール関連 SAP が臨床予後を低くすると結論する。		